

児玉 康比古 議員



一問一答方式

- ① 健康寿命延伸
- ② 自主防災組織
- ③ 今後の消防団のあり方

健康寿命延伸について

問 平均寿命と健康寿命との期間を短くすることにより、高齢になっても自分で生活できる環境づくりが必要であると考えている。

答 現在、本市では今まで取り組んでいる事業をまとめて、健康寿命延伸のためのプロジェクトの素案づくりを推進していると聞いているが、どのようなイメージなのか。

答 本市では、健康寿命延伸を健康づくり第2次計画の中の基本目標の一つとして掲げて、事業を推進

していますが、計画の達成に向けては、市民の皆様が参加いただく仕組みを構築していくことが大切ではないかと考えています。

このようなことから、令和2年度には、施策の普及、拡充を図るために、現在の個別計画を再編し、健康寿命延伸に係る施策に特化したアクションプランを策定して、各セクションが連携して全市的に推進したいと考えています。

さらに、施策の推進と機運の醸成を図るため、「健康寿命延伸基本条例（仮称）」の制定や「健康寿命延伸都市宣言」についても検討していきたいと考えています。

なお、健康寿命延伸に係る各種事業については、広くご意見もいただきながら、現在取り組んでいる事業に加え、提案いただいた事項等も含め、新たな取り組みも今後検討したいと考えています。

自主防災組織について

問 7月豪雨で浸水被害があった川流域の地域には、一日も早く

災害・避難カード、マップ等を住民

に示すべきと強く求めているが、なぜ推進できないのか。

答 今年度から3カ年事業として実施している災害・避難カード事業については、今年度は肱北地区、田口地区、上須戒地区、八多喜地区の4地区で実施されています。

令和2年度については、現段階で事業実施予定の5地区に対する予算を計上しており、今後実施を予定する地域があれば補正予算で対応する予定です。豪雨災害で被災した地域は、この事業に取り組んでいただきたいと考えています。

しかし、この災害・避難カード事業の最も重要な点は、災害・避難カードを作成することではなく、その作成に当たり、どのような危険があり、どのような避難が可能なのか、それぞれの地域で考え、自分たちの手で作成し、普及していくことが何より重要なことと考えています。

今後の消防団のあり方について

問 全国的に消防団員のなり手が少ないのが現状であると思うが、

松山市では大学生防災サポート制度の導入や、郵便局員や企業消防団等も活動されている。

本市としても、大規模災害に対応できる消防組織を検討すべきと思うが、消防団の今後のあり方の理想像についてどう考えるか。

答 少子・高齢化等による若年層の団員の確保が難しく、団員数は年々減少の傾向にあることから、地域の消防力を確保するため、今議会に消防団条例の一部改正案を提案し、機能別団員の確保に努めることとしていきます。

本市の機能別団員の役割は、火災や大規模災害等において、現場で不足する消防力を補完する役割であり、一定数確保することで、大規模災害にも対応できる体制が整備できるものと考えています。

新しい消防団のあり方として、水上バイク免許取得者の協力や大規模災害時のみ活動する分団など、貴重な御意見をいただきましたが、他自治体の事例等も参考に、消防団とも今後のあり方について協議を進めたいと考えています。